

平成26年度第2回流山市産業振興審議会会議録

- 1 日 時： 平成26年8月5日(火) 14時00分～16時00分
- 2 場 所： 流山市役所第2庁舎304会議室
- 3 出席委員： 古坂稔委員、土屋薫委員、洞下英人委員、池森政治委員、秋元篤司委員、高橋啓治委員、藤本隆委員、片岡晃一委員、山田伸委員、佐藤元子委員、伊藤基委員
- 4 欠席委員： 坂巻儀一委員、菅野洋介委員、山崎日出男委員
- 5 事務局： 福留産業振興部長、金子産業振興部次長、山崎農政課長、長橋都市計画課長、精木商工課長補佐、秋元農政係長、柳商工係長、房野主事、稲村事務員
- 6 議題：
 - (1) 答申に向けての具現化策について
 - ア 商店街活性化の具現化策
 - (ア) 流山本町の景観整備
 - a 流山本町の歴史的建造物を店舗として利用するだけでなく、景観を整備することで、さらなるエリア全体の魅力を高め、商業を活性化する方向性を示す。
 - (イ) 流山共通ポイントカード「ながぼん」のさらなる魅力アップ
 - a 「ながぼん」が、利用者にとってより魅力のあるサービスとなるよう、アドバイザー活用等、今後の方向性を示す。
 - (ウ) I Tの利活用
 - a 下記のようなI Tの利活用を促進する方向性を示す
 - (a) ブロガーボランティアを募り商店のレポートを行ってもらう
 - (b) 大学(江戸川大学メディアコミュニケーション学部等)との連携・協働によるホームページ等の改善
 - (エ) よろず支援相談センターの流山ローカル版の設置
 - a 相談がし易く、また相談員がこちらから出向いて、事業者の課題を発見・解決できるような、よろず支援センターの流山版の設置に関する検討を行い、方向性を示す。
 - イ 農商工連携の具現化策
 - (ア) 産業コミュニティの構築
 - a 所沢の農商工連携きっかけづくり交流会を参考に、やる気のある事業者同士のコミュニティづくり、および事業のマッチ

ングを促進できるよう、産業コミュニティの構築に努める。

b 若手農業者意見交換会について

(2) 審議会の運営方法について

(3) 今年度のスケジュールについて 資料

7 閉 会

議事録（概要）：

事務局より挨拶、配布資料確認。

古坂会長 みなさんこんにちは。本日は14人中11人出席（1名遅れての参加）につき、会が成立していることを報告する。
本題に入る前に、前回答申に係る新川耕地の景観計画の変更につき、進捗について事務局から説明をお願いします。

金子課長 都市計画課長の長橋より説明を申し上げる。

長橋課長 お手元の資料をご確認ください。平成25年度の産業振興審議会の答申を受けた現状について説明させて頂く。

ピンクに塗った「新川の連なる緑の景観創出ゾーン」については「低層」という文言を外した。

今日から一か月間、景観計画の縦覧が行われ、9月27日に公聴会が予定されている。

景観計画の変更を受けて、20メートルと定められている低層部分の高さ制限について、開発に関わる許可基準の変更に着手した。

条例改正については来年度早々に手続きに入りたいと考えている。

古坂会長 今の説明について質問はあるか。

池森委員 ④の「新川の連なる緑の景観創出ゾーン」は、現在予定されている建物の部分に該当するのか。

長橋課長 第一物流の横については相談が来ている。工業団地横については計画するような話は上がっているものの、まだ具体的な相談は受けていない。

池森委員 今後の利用を想定してのエリア分けという認識でよいか。

長橋課長 その通り。

池森委員 ③の「新川耕地景観保全ゾーン」の部分は現状どのようになっているのか。

山崎課長 水田が中心であり、遊休化している部分もある。現況は農地である。

池森委員 この部分は農地には適さないという話も聞いている。現時点で計画

- を決めてしまっただろうか。
- 山崎課長 農地には適さないということよりも、水田として深いところもあるので、そこを畑にすれば、農地として活用はできる。
- 池森委員 仮に農地に適さないとすれば、遅かれ早かれ建物を建てるのではないかと思われる。何度も手続きをするよりも、今から計画を決めてしまっただろうか。
- 長橋課長 開発が認定されている道路とそうでない道路がある。旧有料道路は認められている。
流山市の都市計画マスタープランにも基づいており、条件が課せられている。
- 洞下委員 細かい基準は出るのか。
- 長橋課長 計画の場合、数値基準は求めている。あくまで協議の中で決定してゆく。
- 洞下委員 具体的に、工業団地で建て替えをするときに、建物を小さくせざるを得ないという事があり得るのか。
- 長橋課長 あり得る。基本的には既存の建物も含めての協議。基本的に建ぺい率、容積率は守られる。
- 片岡委員 流山インターの西側に道の駅などを作ることは可能と思われるが、その際には改めて計画の見直しが必要なのか。
- 長橋課長 法律・指針・マスタープラン等に乗っ取って計画を作っている。ここは市街化調整区域なので、できることは限られるという認識。農地法の問題も含め、諸条件をクリアしていかないとなかなか難しい。
- 古坂会長 我々の答申のもと、市の方で条例改正に向けて動いていることが確認できた。

(ここで長橋課長が退出)

- 金子課長 前回の審議会において商店街の話が出たが、少し誤解を生じている部分があったので、配布した参考資料をご確認頂きたい。
15商店会が市内にある。平成25年度の集計において、会員数で347、空き店舗数は42となっている。
江戸川台東口の商店街の写真をみると、このように店舗が連続してつながっているのは江戸川台の東口に限られる。資料の裏面には、初石前商店街の地図で、商店に黒くしるしをつけている。ある程度、店があるが、点在しているような状況であることがお分かり頂けると思う。
商店街によっては、街路灯の維持管理がメインとなっており、その電気料に市の補助金が入っている。

先日、千葉県より、商店街アドバイザーを派遣して頂いたが、その際の話で、現在の目立った活動としては年末に1度、商店街マップを新聞折り込みしているのみ、という状況である。初石に限らず、その他のほとんどの商店街が同じような状況と言える。

次に、商店街活性化の具現化策について説明する。

前回の審議会を受けて事務局からは、いくつか具体案を提示させて頂いた。

流山本町の景観整備について、現在はツーリズム推進として、流山の歴史ある建物の活用に対し、改装費用や賃料に対して補助金を出し、商業の活性化、交流人口の増加をはかるような事業を行っている。

本町地域への来訪者は平成22年度では約2万3000人ほどだったが、平成25年度においては来訪者約6万人と、3倍近い実績を上げている。

観光と商業を結び付け、活性化してゆくものとして、ひとつの事例として提案させて頂いた。

「ファサード整備」というのは、歴史的町並みを作るために、ひとつの観光というより「まちづくり」といった方が近い。本町全体が歴史的で魅力的なまちに代わっていき、人が来て、商業が活性化する、というイメージ。そういったものを方向性として示せるのではないかと考えた。

次に、ながぼんのさらなる魅力アップについて説明する。

現在は会員数24,000人ほど。資料2は、商店街よろず相談アドバイザー派遣に関するご案内である。ながぼんの事業も、専門家のアドバイスを受けることによって、課題の抽出や、新たなアイデア・方向性が見えてくるのではないかと考えている。

次に、ITの活用について説明する。

ブロガーをボランティアとして募り、市内各商店のレポートを行ってもらうことで、来店のきっかけをつくる。あるいは大学との連携が考えられる。学生の意見を聞きながら、商店街の改善策であるとか、情報発信のアイデアなどをもらったりする場を設けられれば、と考えている。

次に、よろず支援相談センターの流山ローカル版の設置について説明する。資料3をご覧頂きたい。

専門家がチームを組んで、経営や販路拡大等の相談に乗ってもらえ

る拠点が立ち上がったが、相談のため県まで出向くという事はなかなかできるものではない。流山市内にこの拠点を立ち上げることで、相談員から事業者を訪問し、事業者の課題解決について、積極的に支援を行うことで、商工業の発展に結び付けていく、というもの。次に、農商工連携の具現化策について説明をする。

次に、産業コミュニティの構築について説明する。すでに前回の審議会で産業コミュニティの構築については答申を頂いているが、まずは所沢市の資料をご確認頂きたい。

これはやる気のある農業・工業・商業事業者同士のコミュニティであり、さまざまな取り組み、マッチングを行うなど、ビジネス創出のきっかけを提供するもの。現在も所沢市で行われており、単なる会の主催だけではなく、その後のフォローアップまでも行われており、非常に活発な意見が出されていると伺った。

また、産業コミュニティの構築という点で、流山市においては近隣市で「東葛工業人交流会」などが行われている。

流山市でも、今後、こういったマッチングの機会を創出していきたいと考えている。前回の審議会でも申し上げたが、若手農業者意見交換会として、16名による会合を、農政課のもとで主催した。今後は商工会議所などとも連携し、商業者や工業者にも入ってもらい、農商工連携のなかで産業コミュニティの構築に取り組んでいきたいと考えている。

当初の構想とは条件も異なってきた部分もあり、まずは具体的なところから取り組むことで、着実に進めていきたいと考えている。ここで、山崎農政課長より、6月19日に行った若手農業者の意見交換会について報告させて頂く。

山崎課長

25名に通知を行い、16名に出席頂いた。コメ・野菜・果樹・花卉まで様々な農業後継者が集まった。生産性の向上、所得の向上が課題という話であった。

市内でも、給食にコメを提供している。2400俵(14,400kg)になる。米に加えて、野菜ももっと提供できないかということで、約10トンを提供している。学校給食の仕組みを確認して、さらに拡充していきたいと、強く考えている農業後継者が多かった。

秋口で情報が揃うので、第二回目の会合を開催したいと考えている。すでに、参加者のなかでタイアップの話も持ち上がっている。

商工会議所の会員となり、加工品を販売している事業者もいる。

金子課長

(1)については以上です。

- 古坂会長 いま、事務局から商店街活性化の具現化策、農商工連携の具現化策について話があった。ここで皆さんからの質問や意見を伺いたいと思う。
- 秋元委員 ポイントカードは、17万人の人口に対して24000人ということで、比率で言うと高い比率の人数がカードを持っているようにも感じるが、評価としてどのポイントを課題として考えているのか。
- 古坂会長 自分も関係しているの、説明したい。
- 何度も言っているが、前回の答申で、流山全体を一つの商店街として見立てて、共通のポイントカードを発行し、行政も協力することで、魅力的なものとなり、商業が活性化されるよう、答申に盛り込んだ。その後、商工会議所が事務局となり、流山商業協同組合が主体組織となることで、カード発行が実現した。
- 会員は24,000名だが、当初の目標の6割程度である。また、加盟店も150店を目標としたが、現在は105店舗程度。
- 枚数としては少なくはないが、開始以来3年を迎えて、様々な問題が出てきている状況。
- もし機会を頂けるならば、これから検証をするためにも、皆様に発足当時の状況から現在の課題までお話をさせて頂きたいと考えている。
- 片岡委員 自分もこのテーマのもと、どのようなことができるか考え、様々な商店街を見て回った。
- 会長のお話だと、市内全体を商店街として見立てて、ということだが、一方で本町に限定した話も出ている。整理が必要ではないかと思う。
- ながぼんの推進だけであれば、審議会でするテーマではないと考えている。
- カード事業は本当に難しい。自分の農林中金時代は共同カード事業があり、加盟店の促進などうまくいかなくて、日本信販に売却して終わった。
- 商工会議所に補助金をつけて様々な取り組みをしてもらい、頑張ってもらおう方が現実的ではないかと考えている。
- ホームページの運営についても、もっと見やすくするなどやるべき。事業者名は載っているが、店の紹介になっていない。もっと商工会議所へのバックアップを強めるべきだと思う。
- 市でも色々な調査をやっているが、商店街は衰退している現状。こ

- これは時代としてもしょうがないのではないかと考えているが、会長はどのようなお考えなのか。
- 古坂会長 大型店が出ようが、最終的には自助努力の問題だが、流山市が商業を政策として考えるうえで、前回の審議会の答申を受けて、ながぼんがスタートしている。現状を把握してもらわないことには、意見もうかがえないと思うので、先ほどのようなことを申し上げた。
- 藤本委員 会長のおっしゃる通り、前回の答申があった。ここで改めて課題を見直すのは良いことだと思う。
- 池森委員 私は現在、商工会議所の会頭をやっている。ながぼんは商業協同組合が事務局となり、商工会議所がバックアップしている状況。会議所としては市からの命令でスタートしたような状況。直接、店舗にお願いに行つてなんとか加盟して頂けるような状況で、苦戦している。
- 片岡委員は、ながぼんは審議会で取り上げるテーマではないとおっしゃるが、前回の答申をしている以上、なげっぱなしにするわけにはいかない。審議会としては、前回、ながぼんをやるように答申を出した立場であるので、責任をもってその先も考える必要があると考えている。
- 古坂会長 ながぼんカードのスタートありきの審議会という表現はふさわしくない。商業の活性化ということを考える場合に、ながぼんを軸にする以外に考えられない。
- ながぼんは非常に良いシステムだが、そこには問題点もある。だから現状を知って頂き、検証しなければ、この先も考えられないのではないかと考えている。
- 土屋副会長 前回は結論ありきで進めたようなことはなく、検討した結果、選択肢の中からベストのものを選んで答申した。
- しかし、どうしてそれがうまくいっていないのかは、あまり把握できていない状況なので、知りたいところだ。
- 今回の話につなげるとすれば、2つのテーマが設定されているが、弱い所が連携してもなかなかうまく行かないと思う。流山の強みとしては、交通の便や人口増といった背景があり、新住民を含めた連携の形が求められてくると考えられる。その意味では、ながぼん、IT利活用などは、事業者のみならず、新住民を含めて連携をしてゆくのが良いと思う。
- 洞下委員 ながぼんの分析は大切だと思う。前回の答申を出した責任もある。そもそもの話になるが、商業の活性化は、流山市民にとって必要な

のか、ということを知りたいと思う。

流山市が活性化する、という点で、商業の活性化が大切なのかという目線が抜けているのが、失敗の原因ではないか。市民の目線で見ると、商業活性化がどんなメリットがあるのかをしっかりと考えなければ、検証もうまく行かない。

流山市の商業の「目的」を検証し、再構築する必要があるのではないかと強く感じた。

古坂会長 ながぼんの検証が必要という事で、皆さんの認識が一致したということによろしいか。また、その現状把握を行うということによろしいか。

高橋委員 ながぼんが商店に寄与しているのかどうかを知りたい。

古坂会長 先程も申し上げた通り、私自身は非常によくできていると思うが、少し欲張った仕組みになってしまったと思う。行政の前で言うのははばかれるが、過剰投資があったと思う。例えば行政ポイントも様々なことを想定していたために、その構築のために2000万。それが現在も尾を引いている。推進していった責任の一端が審議会にあるので、現状をとにかく把握して頂き、ご意見を頂きたい。次回、商業協同組合を含めて、当事者から話を聞くという事によろしいか。事務局は準備をお願いします。

次に、農商工連携の方に話を進めたい。

農業の若手グループからは、具体的な要望はあるか。

山崎課長 1番には「新たな販路の拡大」という意見が多かった。今回は学校給食が焦点に上がった。農商工連携についても、

金子課長 販路として給食のようなしっかりしたものもあれば、例えばイチゴ農家の方で、地元のケーキ屋さんとの連携や、野菜についても地産地消が浸透してきており、地元の事業者と知り合うきっかけを求めているという話があった。若手農業者にとっての販路拡大ということで、地元の商店・飲食店等を、商工会議所から紹介頂き、つなげる場を設定していきたいと考えている。

土屋副会長 農商工連携について、市内で素材、加工、パッケージング、販売のすべて賄うことに無理があるのではないかと考えている部分もある。さきほど申し上げたのは、どういうものがほしいか、ということの起点にして、市民、つまり消費者も巻き込んで進めることで、うまく行く形が作れるのではないかと考えている。

金子課長 もちろんそういったやり方もあると思われる。まずは事業者同士で

交流をもって、次の段階で、消費者から話を聞くという形もあると思われる。

土屋副会長 いきなり消費者に、というアクションが取りにくいのであれば、たとえばマンションの管理組合といった組織に働きかけるやりかたもあると思う。

洞下委員 そもそも、流山市が産業振興審議会を設置するという事は、誰のために、何を目的としているのか、ということをおぼわすてはならない。狭義の産業を活性化するのか、市の全体を視野に入れて、産業を通じた「まちづくり」としての活性化を考ふるのかをはっきりさせないといけぬい。

片岡委員 農業は消費者のニーズが「安心・安全」「新鮮」など、はっきりしたものがある。地産地消は大事である。現実的には、野菜の生産数量がまとまらないので、給食への提供も難しいという側面がある。柏市では地場の農家とレストランの出会いの場を作るなどしている。流山にも新鮮食味があるのだから、組織化するべきと話をしている。

流山はまだまだ遅れている。ここは行政が頑張るべき。このままだと流山の農家は無くなってしまふ。横の連携が必要。行政にとっても事業者同士の連携をするのが効率良いだろう。

古坂会長 商業も同じ。連携が必要だ。

山田委員 特産の農産物を活用した生產品への補助金がある。展示会を補助金でフォローするなどの制度があり、地域のブランドづくりを支援することができる。新住民のニーズもあるので、市内での農商工連携はじゅうぶん成り立つのではないかというのが感想である。

藤本委員 まさに今のような議論が前回の審議会で行われていた。流山市が持っている資産を活用し、そこから新しい流山ブランドをどう創出するか、というところまでを考ふるのがこの審議会の役割だと認識している。

ここで議論すべきことは、新しいビジネスを興す方向性を出すことである。

前回の審議会で、どういふ経営資源があるか、どういふ課題があるかを

今回の新しい試みとしては、事業者のみではなく、市民も巻き込んだ形で進めていくことができないか、というもの。産業化していく中で、市民がボランティアではなく事業者として参加してゆく形。

具体的にそこで何を行っていくかということについては、そのスキームを作り、関係者、専門家が集う場を作るべき、というのが前回の答申である。

その前提で今回の答申のスタートラインを設けなければならないと考えている。

藤本委員 場合によってはポイント制度もこのコミュニティに絡めて、ということイメージしていた。

古坂会長 その前提でシステムが構築されているが、なかなか実現しない。
洞下委員 具体的に、連携しない理由はなんなのか、と思う。たとえば、市民祭りや産業博が連携されていない。具体的なモノや形ではなく、それを創出していく手段を審議会として提案していくのがあるべき形ではないかと思う。

藤本委員 仕組みや仕掛けをつくらないとなかなか形になっていかない。仕組みは我々で作り、中身は当事者でつくるようなことができればと思う。

古坂会長 前回の審議会で議論を尽くしているので、同じ議論をする必要はないと思う。

佐藤委員 ずっと話を聞いてきて、議論の具体的な点が何もわからない。商業の活性化は誰のためのものなのか。商品の開発は誰のためのものなのか。
審議のための審議のような感じがして、具体的なことが何もわからない。

古坂会長 流山らしいものは何か、ということを探めていると思う。それを生み出すにはどういった仕掛けづくりが必要かという話をしている。

池森委員 総論と各論の話。総論についてはイメージは共有できているが、各論まで落とし込んで行かないと、具体的なイメージは共有できないのではないかと思う。

商工会議所では会員の8割が商業者である。

私の立場から行けば、会員を増やさなければならないという使命があり、なかなか難しい。

伊藤委員 3つ思うところがある。1つ目は流山市として、市内事業者に儲けてもらい、税収をアップするという目的ははっきりしていると思う。そのためにも、市民の方にお金を払ってもらい、満足してもらう必要がある、という話。

二つ目は、農協の中央会をつぶすような話があったが、実際に農家の人にとって、業界団体というのはどのように扱われているのか、

市内の事業者が、農協にどの程度依存されているかなどが気になる。若手農業者の報告からは農協の話は出てこなかったもので、自立してやろうとしているということなのか。

3つ目。自分も青年会に属しているが、商店街と商工会議所が必ずしも密接にリンクしている訳ではない。世代のギャップなどもあり、人と人のコミュニケーションとはつくづく難しいものだと思う。

古坂会長 次回はながぼんの現状をわかって頂くということで進めたい。農商工連携に関して、審議会では具体的な形を決めて提案するのか、方向性を示すのかを決めなければ。

土屋副会長 今日出た話として、市民目線なのか、事業者目線なのかという話だが、審議会では市民目線なのは前提だが、その点をしっかり確認して定めないと話がすれ違ってしまう。

片岡委員 分科会を作るという方向はないのか。

古坂会長 それはまだ決めてはいない。共通認識ができた段階で分科会の設置をする方が望ましいと思われる。

金子課長 議題の2の方で皆様の意見を頂きたいと考えていた。

集中して審議を行うため、グループに分かれて、討議をするという方向がある。一方、商店街活性と農商工連携は非常に関連のあるテーマではあるので、現状の通り分けずに進めるという考え方もある。

土屋副会長 分けるとすれば、産業目線か、市民目線かという分け方があり得ると思う。

池森委員 ながぼんの話は全体で聞いた方が良い。

片岡委員 ながぼんを組合で運営されているが、行政がやるべきことの提示をこの審議会でやっていくべきではないかと思う。

洞下委員 答申の内容を絞っても良いのか。ながぼんを使って農商工連携をはかるという事も考えられる。

池森委員 素朴な疑問がある。市議会では審議会の意見をある程度尊重してもらえるのか。

福留部長 議会というよりも、審議会は諮問機関であるので、市長に答申を出して頂く。それを尊重し、市長が施策に反映するか否かを検討し、施策に反映される場合は、予算化され議会に諮られるという流れである。

片岡委員 前年度の審議会では新川耕地の条例改正が結論にあったように思う。市が何をやりたいのかよくわからない。

古坂会長 以上でよろしいか。今回のテーマはいずれも議論を尽くしてきたことなので、現状の問題点を改めて確認し、進めていきたい。

次回はいつごろで考えているか。

金子課長 11月中旬をめどに開催したいと考えている。

古坂会長 様々なご意見が出て。方向性も見えてきたと思われるが、欠席の方もいるし、次回まで間が空いてしまうので、次回の開催までに委員からアンケートの形で意見集約を行うよう、事務局にお願いしたい。

秋元委員 流山インターそばに道の駅を作る噂を耳にしたが、計画があるのか無いのかを確認したい。

福留部長 現時点では明確な計画はない。議論はあったが形になっていない。現在の新鮮食味では売り場面積が限られており、ステップアップが必要と思う。

古坂会長 次回の開催は、11月10日（月）で決定とする。また改めてご案内する。

以上